センターの設置趣旨

当センターは、京都の伝統・文化や暮らしを支えてきた「京都の自然の恵み」を守り、次世代につなぐため、主に以下の取組により、効果的かつ持続可能な生物多様性保全の取組を展開します。

・生物多様性に関する情報の収集・発信
・生物多様性に関する普及啓発・担い手育成
・地域や企業の保全活動の支援
・多様な主体との連携・協力関係の構築

生物多様性とは？

生きものや生態系の豊かさを表す概念です。1985（昭和60）年にアメリカの生物学者W.G.ローゼンが造語し、世界中で広く用いられるようになりました。生物多様性には「生態系」「種」「遺伝子」の３つのレベルがあるとされています。

①生態系の多様性
・森林、草原、湿原、里地域、河川、海洋などの環境に応じて様々な生態系が存在すること。

②種の多様性
・それぞれの生態系に適応して、様々な種類の動植物が生息・生育していること。

③遺伝子の多様性
・同じ種の中にも、地域や個体によって違いがあり、多様であること。長い年月をかけて各地域の環境に適応することで、地域独自の遺伝的特性が育まれます。また、個体間でも大きさや性質などにばらつきがあります。

きょうと生物多様性センター
Kyoto Biodiversity Center

【本部オフィス】
京都府立植物園内
〒606-0823　京都市左京区下鴨半木町

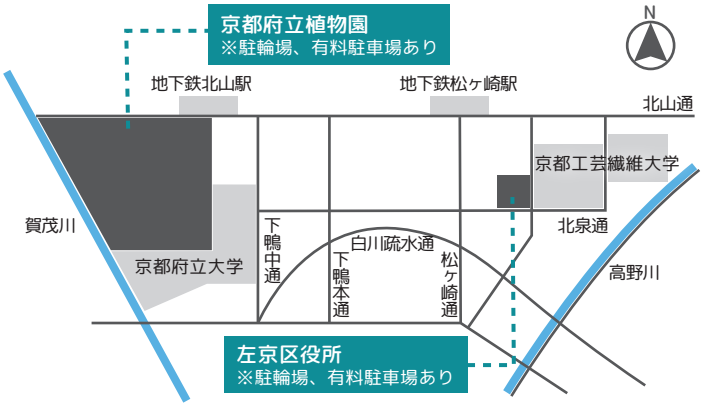
※ 本部オフィスまでご相談の方は、事前にお電話かメールでお問い合せをお願いいたします。

【交流オフィス】
左京区役所２階　⑭窓口
〒606-8511
京都市左京区松ケ崎堂ノ上町７番地２

○開館日
毎週月曜日、水曜日及び金曜日
午後１時～午後５時
（祝日・休日・年末年始を除く）

Tel：090-4496-3887
E-mail：contact@kyotobdc.jp
HP：https://www.pref.kyoto.jp/biodic/index.html

ホームページにはこちらからアクセスできます

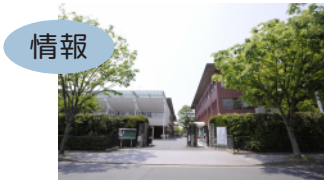


資料６

きょうと
生物多様性センター

センターの運営体制

■設　置　母　体　京都府、京都市（府市協働で設置）
■名誉センター長　山極　壽一（総合地球環境学研究所長（京都大学名誉教授））
■セ ン タ ー 長　湯本　貴和（京都大学名誉教授）
（兼運営協議会長）
■運　営　主　体　きょうと生物多様性センター運営協議会（任意団体）



センターの拠点オフィス

〔本部オフィス〕京都府立植物園会館（本部事務、コーディネート）
〔交流オフィス〕京都市 左京区役所（ネットワーク形成、情報発信）
〔情報オフィス〕京都府立大学（生物多様性情報の集積・データベース化）

※当センターは、生物多様性地域連携促進法に基づく、生物多様性に係る各主体間における連携・協力のあっせん、必要な情報の提供や助言を行う拠点「地域連携保全活動支援センター」として位置づけられる拠点施設です。

センターの機能

テーマ	事業内容・機能
収集	①生息分布などの生物多様性情報の集積・データベース化 ②各主体における標本・文献等資料の保有状況の把握
利活用	③多様な主体※のネットワーク形成 ④多様な主体との連携による保全活動のコーディネート ⑤多様な主体の保全活動や事業の際の環境配慮などに関する相談対応 ⑥民間企業等に対する情報提供と専門知識に基づく助言・提案 ⑦民間企業や保全団体等の保全活動や啓発等の支援及び受託 ⑧生物多様性に係る調査・研究　※民間企業や大学等研究機関、保全団体、府民等
継承	⑨資料や情報を活用した環境学習、担い手育成及び情報発信

賛助会員の募集

当センターは、個人や企業、保全団体などに幅広く参画いただき、力を合わせて京都の自然環境を守る取組を進めています。賛助会員としてご支援をお願いします。詳しくは事務局まで。

なぜ生物多様性が重要なの？

私たちの暮らしは衣食住や水の供給、気候の安定など、生物多様性を基盤とする生態系から得られる恵みによって支えられています。

私たちは、昔から、そのような恵みをもたらしてくれる自然に感謝し、畏敬の念をもって接してきました。

一方、人間の営みが生物多様性に与える影響もあります。水田やその周辺の水路・ため池、薪炭林や農用林などの里山林は、人が利用して維持してきたことで、その環境に固有の生物多様性を育んできました。

このように、自然と人とはお互いに有形無形の影響を与え合い、分かちがたく関係しながら、長い年月をかけ調和を図りながら共生してきました。

加えて、京都の伝統・文化は生物多様性と深く結びついてきたことも忘れてはなりません。京都は都が置かれて以来 1,200 年以上にわたり、生物多様性の恩恵を受けながら、様々な文化を生み出し発展させてきました。

一方で、建築や祭事のための動植物の利用を通じて里山を利用・維持してきたことなど、人間の文化が長い時間をかけて自然環境に与えてきた影響も大きなものがあります。

私たちは生物多様性がこれからも京都の文化や伝統とともにあるよう、未来に引き継いでいかなければなりません。